

大山ハッピーロードの課題と今後

濱田 大河

筆者が研究対象とするのは「大山ハッピーロードの課題と今後」である。大山ハッピーロードとは東京都板橋区にある商店街のことである。この研究に至った理由は、筆者自身が大山ハッピーロード商店街の近くに住んでおり、小さいころからこの商店街を利用していたからである。今も昔も商店街は多くの人で賑わっている。

しかし、大山ハッピーロード商店街には大きな課題が3点ある。1点目は都市開発計画である。2点目は業種の偏りである。3点目は若者の商店街離れである。このように一部の地元住民しか利用しない商店街となってしまうと、活気が無くなり、衰退に繋がる可能性がある。そこで、都市開発計画によって大きく変わる大山ハッピーロード商店街を、全ての世代にとって暮らしやすい商店街にするために、どのように変えていくのがよいのか考えたい。都市開発計画とは、昔から繋がっていた大山ハッピーロード商店街を2つに分断するといった事業のことである。この事業について、さらに大山ハッピーロード商店街について、地元住民はどのように考えているのかを知るためにアンケート調査を行った。その結果、都市開発計画について世代に関係なく共通した意見が「寂しい」というものであった。しかし「寂しい」という意見と同時に賛成している人がいた。都市開発計画が決まったことを受け入れて、新しい大山ハッピーロード商店街に生まれ変わることに期待していることがわかる。反対意見もある中で開発は続いていくので、工事が終わった時には都市開発をしてよかったと思われるような結果を期待したい。

上述した3つの課題に対して、アンケート結果を用いて改善策を交えながら考察していく。都市開発計画の改善策は、多くの世代に利用されやすい商店街にすることである。業種の偏りは、今の大山ハッピーロード商店街には何が必要であるかを見極めることで改善できる。若者の商店街離れについては、これらの改善策は空いたスペースの多い路地裏に店を設けることで若者の集客が得られるであろう。

筆者がもっとも驚いたのは、自身が行ったアンケート調査の結果である。アンケート調査を行う前は、都市開発計画にはほとんどの人が反対すると予想していたが、「期待している」といった回答が複数見られた。このような結果から大山ハッピーロード商店街は地元住民に愛されている商店街だと再確認できた。大山ハッピーロード商店街がより良くなる鍵は「都市開発計画」が成功することである。都市開発計画が良い結果になるよう筆者も願っている。